

## ハイデルベルク信仰問答より

問 104 第五戒で、神は何を要求しているのですか。

答え それは、私が父と母および私の上に立つ権威ある人々に名誉と愛と忠実を示すことでありま  
す。また、私が自らを、丁重な服従をもって、あらゆる周到な教えと戒規に服させ、彼らの手によ  
って、私たちを治めることが神の御心であるがゆえに、私もまた、彼らの過ちを忍耐強く耐え  
ることでもあります。

第五戒 あなたの父母を敬いなさい。それは主なるあなたの神が、あなたに与える地で、生き長らえるため  
ある。(出 20:12)

十戒は内容的に前半と後半の二部に分かれていると言われます。今日から後半に入ります。

第1～4戒：神に対する人間の義務と責任

第5～10戒：人間の人間に対する義務と責任

(※問 92 からのショートメッセージ参照)

聖句そのものを読むと「**あなたの父母を敬いなさい**」という家庭内のあり方に限定されていますが、  
本問答書はその適用範囲を「**上に立つ権威ある人々**」にまで拡大しています。

ところで、「**あなたの**」とは誰を指すのでしょうか。十戒がエジプトを脱出したイスラエルの民に与  
えられた教えであるなら、それはイスラエルの民をまとまりとして見たところの「あなた」という意味  
で捉えるべきでしょう。つまり、第一義的にはイスラエルの民にとって上に立つ存在、究極的には主  
なる神であると同時に、その神によってイスラエルの上に立てられた地上の権威ということになります。  
歴史を紐解くと、イスラエル民族は旧約から新約の時代にかけて、アッシリア、バビロニア、ペルシ  
ヤ、ギリシャ、ローマという大国の支配下に置かれることとなりますが、それらの権威に従うべきこ  
とが示されていると理解できます。預言者エレミヤなどは、捕囚民に対して切々とこのことを説いてい  
ます(エレミヤ 27 章参照)。

第二義的には、「あなた」をイスラエルに属する個々の民と理解することもできるでしょう。個人の  
社会生活の中で、自分の上に立つあらゆる権威を認め、敬い、愛し、従うことが求められています。本  
問答書では、「**名誉と愛と忠実を示す**」「**自らを、丁重な服従をもって、あらゆる周到な教えと戒規に服  
させ**」「**彼らの過ちを忍耐強く耐える**」と念入りに教えられています。人は上に立つ人を認めたくない  
場合が少なからずありますが、そのような感情を超えたところで、神によって立てられたその人を敬  
うべきであると言われているのです。これは、人間が自然に従える教えではないことを、まず前提とし

て理解しておく必要があります。なぜなら、上に立つ人々が誰もが尊敬に値するわけではなく、時には人間性が腐敗した人の下で生きなくてはならないからです。親、先生、上司、為政者と、様々な領域でこのことを考え、彼らをどう愛するべきかを自らに問い続けるのが神の民の生き方であると言えます。

以上の教えは、そのままキリスト者にも適用することができます。しかし、この教えに立って生きていこうとするとき最大の葛藤となるのは、主なる神以外のものの神格化や隣人への暴力を強要されるような状況です。権力はあらゆる領域で「獣化」するおそれがあり、私たちは自分の究極の王が「獣」ではなく「キリスト」であることを常に明記していなくてはなりません。上に立つ人々を愛し敬うということは、偽りの道を歩むその人に対してイエス・キリストの真理の道を示していくことが含まれます。バプテスマのヨハネはヘロデ王の不倫を指摘し（マタイ 6 章）、パウロはペリクス、フェスト、アグリッパに対して救いの道と最後の審判について語りました（使徒 24-26 章）。彼らは、たとえ相手に受け入れられずとも、キリストの道を示し、そこに立ち続けました。私たちも常に祈り、今自分はどうか行動すべきかを聖霊に教えていただきつつ、信仰の道を全うしたいと思います。